

野沢温泉学園

地域支援センターだより 第9号

令和7年1月27日 発行：野沢温泉学園地域支援センター

今年度も野沢温泉学園の活動にお力添えいただきありがとうございました。様々な立場の方が関わることで、子どもたちの活動の場が広がり、活動や学びの質も変化してきました。関わってくださった方々の充実した表情もとても印象的でした。皆様の一年間のご支援に心より感謝申し上げます。

「おれいの会—ありがとうの気持ちをこめて」（こども園）



12月10日に、桜茶を飲む器づくりと畑の大豆づくりと一緒にやってくださった池田さんと宮崎さんをお招きしてお礼の会をもらいました。活動の振り返りをした後に、おいしく調理してもらったフライビーンズとお茶で乾杯！自作の器での乾杯に、みんな満面の笑顔でした。最後にみんなで相談して作ったメッセージカードをプレゼントしました。

こども園でたくさん遊び、その中でいろいろな体験をしてきた年長さん。地域の方に関わっていただくことで、好奇心やチャレンジする気持ちが一層高まるように感じました。小学生になったらまた活動の場が広がることでしょう。村のみなさん、これからもよろしくお願ひします。



「道をたどり歴史を思う」（小学5年生）

令和6年度「ふるさと CM 大賞」にチャレンジした小学5年生。残念ながら入賞は逃しましたが、リベンジしたい、そのためにも、もっと村の歴史や魅力を学ぼう、と活動を続けています。

12月23日、久保田さんに講師をお願いし、旧市川小学校の展示室にある木製のソリを見ながら当時の話を聞きしました。きっかけは、ソリに来村客を乗せて温泉街を案内していた写真でした。实物を見て、「思ったより小さい」と子どもたち。ソリの前に立って引く人、後ろから押す人がいたこと、寒い時は布をかけてあんかで暖をとっていたこと…。説明を聞くうちに、当時の関係者が児童の一人とつながっていることもわかり、みんなで驚きました。また、上境駅では、過去に野沢温泉駅という名称であったことや東京から学童疎開した子どもたちが、この駅から疎開先の温泉街の旅館に向かったこと、湯滝橋はかつて舟橋から、吊り橋、現在の橋へと変わってきたことを、写真と現地を見比べながら教えてもらいました。最後に「涙松」で、戦時中の悲しいエピソードもお聞きしました。道をたどりながら、子どもたちは歴史を肌で感じ、変わったものと変わらないもの、今につながるものを考えたようです。これからも村のみさんの力を借りて、探究が深まっていくことが楽しみです。



「ジビエから考える」（中学1年生）

中学1年生は、総合的な学習の時間で、村の魅力や課題を探る活動の一環として、ジビエに焦点を当てて学んできました。1回目は野沢温泉村獵友会会長で信州ジビエマイスターの長谷川さんから森の生態系について話を聞きし、2回目は獵友会のみなさんについて罠を仕掛ける体験を行いました。3回目は、熊や猪、シカなど、村で獲られた野生獣の肉や血を使ったジビエ料理体験をしました。教えてくださったのは、長谷川さんを始めとする、村で活躍するシェフのみなさんです。村の恵みであるクロモジや野沢菜漬けを活用したり、麻釜で野菜を茹でたりするグループもあり、まさに野沢温泉を舞台にしたジビエ料理を体験できました。シェフたちの気迫に生徒たちの表情も真剣そのもの。感想からは、ジビエのおいしさへの感動と、村の豊かな自然とその魅力を活かす技術、人の存在に気づいたことが伝わってきました。



村の自然や動物、獵師について知識を深め、自分たちが自然の循環の中にいる存在であることを意識したり、村の魅力を活かして課題解決につなげる大人の姿を学んだりした生徒たち。学校だけではできない貴重な学びができました。

「ボランティアのつどい」（地域支援センター）

今年で3回目となる「ボランティアのつどい」を、11月26日、ボランティアさん、学園職員等、24名が参加して開催しました。前半では、小学5年生のふるさと CM 大賞への取組動画を共有しました。後半は、小グループでの意見交換です。学園の子どものよさや学園の可能性、学園に関わる大人を増やすことなどを話題に、自由に意見交換をしました。以下はその抜粋です。



【学園の子どものよさ】

- ・村が好き。温泉・スキーなど村のよさを純粋に感じている。
- ・村の文化(祭り等)を大切にする大人との関りがある。
- ・団結力があり、地域で守られている安心感をもっている。

【学園の可能性】

- ・中学校の3年間積み上げる「総合」に学園の可能性を感じる。
- ・村の課題に向き合う大人がいて、村ならではの体験ができる。
- ・コーチや講師が保護者で自分と重ねて学びやすい。
- ・園小中と一貫して指導・継続できること。
- ・学園職員の関係がよく、子どもの成長を認め合っている。

【学園に関わってくれる大人を増やしたい・お願いしたい】

- ・学校に関わるよさを発信して「もっと学校に行ってみようか」につなげたい。
- ・村の祭りへの参加等、村の方に直接お話しいただけるといい。
- ・小学校では、安全確保のための体育のプール授業支援や低学年の給食支援、掃除の支援にボランティアをお願いしたい。
- ・中学校では、家庭科や総合の畠作業に支援があるといい。

年に一度のこの集まりを楽しみにしてくださる方がいる一方で、この時期ならではの忙しさもあってなかなか参加者が増えないことが悩みです。村の方と学園職員が顔を合わせて子どもたちの様子や学園のことを気軽に話せる貴重な機会です。その中でお互いにやりたいことや、やってほしいこと、できそうなことが少しでも実現したら、子どもたちも大人ももっと笑顔が増えるように思います。

参加してくださったみなさん、ありがとうございました。次回はより多くのみなさんに参加していただけるように、会のもち方を工夫していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

・支援ボランティアの希望は随時受付中です。

連絡先：野沢温泉学園地域支援ボランティアセンター（野沢温泉村教育委員会内） 担当：藤村 TEL:85-3115